

さいたま市公民館運営審議会第5回会議 議事録

1 開催日時

平成30年7月24日（火） 午前10時00分から11時30分まで

2 開催場所

生涯学習総合センター 7階 講座室1・2

3 出席者名

〈委員：13名〉

- ① 佐伯 加寿美 委員長
- ② 山中 冴子 副委員長
- ③ 石田 玲子 委員
- ④ 加藤 正晴 委員
- ⑤ 金今 義則 委員
- ⑥ 久保木 央 委員
- ⑦ 小池 茂子 委員
- ⑧ 中澤 輝夫 委員
- ⑨ 長谷部 美紀代 委員
- ⑩ 堀杉 幸子 委員
- ⑪ 山崎 栄慈 委員
- ⑫ 山崎 秀雄 委員
- ⑬ 山田 玲子 委員

〈拠点公民館職員：8名〉

- | | |
|----------------|-------|
| ① 西区 指扇公民館長 | 森田 隆之 |
| ② 北区 大砂土公民館長 | 山本 修一 |
| ③ 大宮区 桜木公民館長 | 黒須 雄児 |
| ④ 見沼区 大砂土東公民館長 | 柳 潤子 |
| ⑤ 中央区 鈴谷公民館長 | 掛川 雅世 |
| ⑥ 浦和区 岸町公民館長 | 井出 浩史 |
| ⑦ 緑区 大古里公民館 | 島村 光一 |
| ⑧ 岩槻区 岩槻本丸公民館長 | 宮崎 通夫 |

〈事務局：8名〉

生涯学習総合センター

- ① 館長 野崎 隆史
- ② 副館長 大嶋 真浪
- ③ 主幹兼管理係長 釜 浩美
- ④ 事業・企画係長 荻原 唯史
- ⑤ 事業・企画係主任 榎 進吾
- ⑥ 社会教育指導員 井上 裕未
- ⑦ 社会教育指導員 伏見 浩美
- ⑧ 社会教育指導員 岩崎 まさみ

4 欠席者名

〈委員：2名〉

- ① 碓井 麻由美 委員
- ② 島田 正次 委員

〈拠点公民館：2名〉

- ① 桜区 田島公民館長 押田 龍彦
- ② 南区 文蔵公民館長 星野 務

5 議題

- (1) 第71回優良公民館表彰候補公民館の推薦報告について
- (2) 今後の審議会スケジュールについて

6 配布資料

- (1) 本日の会議次第
- (2) さいたま市公民館運営審議会第5回会議出席者名簿
- (3) さいたま市公民館運営審議会第5回会議席次表
- (4) さいたま市公民館運営審議会第4回会議議事録（案）
- (5) 優良公民館被表彰候補公民館推薦資料（一部）（資料1）
- (6) さいたま市公民館運営審議会スケジュール（案）（資料2）

7 公開・非公開の別

公開

8 傍聴者の数

0名

9 会議

会議は委員の半数以上が出席しているので、成立。

10 審議内容

審議冒頭、前回（さいたま市公民館運営審議会第4回会議）の議事録について、承認を経て議事に入った。

議題1の「第71回優良公民館表彰候補公民館の推薦報告について」、事務局より（資料1）に基づき、説明した。

| | |
|--------|---|
| 佐伯委員長 | <p>ありがとうございました。色々な公民館、社会教育のコアな部分が色々詰まっていたと思います。本日発表いただいたセンターの岩崎さんは、昨年度内野公民館の担当職員だったのですが、もと音楽の先生で、さらにソプラノ歌手ということもありまして、資源がある+（プラス）公民館の資源も×（カケ）ていこうということが行われているということです。最後に見て頂いた、うちのフェスティバルですが、一般的に公民館まつり、文化祭となりますと、サークル団体の発表をする館が多いと思いますけども、内野公民館では、講座や学習の発表会も含めて入れているところがとても素晴らしいかなと思います。</p> <p>皆さんも、説明を受けて、感想や、こんなところが良いと思ったことなどありますでしょうか。</p> |
| 久保木委員 | <p>素晴らしいですね。埼玉県や文科省に対する申請を出される時は、岩崎さんのプレゼンテーション付きじゃないとだめだと思います。是非、いや素晴らしい羨ましいですね。</p> |
| 金今委員 | <p>本当に素晴らしいなと思いました。公民館が地域と寄り添うために、まずは利用者や地域のニーズをきちんと丁寧に把握しています。そのうえで、どのように公民館事業を運営していくか、例えば学校の子供たちだったら、月曜日の何時からだったら大丈夫ですよ、とかきちんと時間や条件を把握したうえで、講座を企画・運営する。それによって人と人が繋がっていくという形がきちんとできているのは、これからの新しい公民館のありかたを示してくれる、一つの方向性ではないかなと思います。</p> |
| 佐伯委員長 | <p>ぜひこの発表を、色々な方に聞いていただきたいですね。他にはいかがでしょうか。</p> |
| 長谷部委員 | <p>発表どうもありがとうございました。子ども達や親子など、地域の方たちにとって、自分の公民館だという意識がどんどん強くなっていくことが、公民館をますます盛り上げていくのではないかなと思いました。</p> |
| 石田委員 | <p>公民館の講座を受け身ではなく、自分たちで企画していこうというところが素晴らしいことだと思います。なかなか公募しても集まらないのではないかなということが懸念されますが、どのようにクリアされたのでしょうか。けっこうすぐに人が集まったものなのか、ちょっと疑問だったのですが、いかがでしたか。</p> |
| 岩崎社会教育 | <p>新しい公民館ということで、既存のグループがなかったので、やって</p> |

| | |
|-------|---|
| 指導員 | <p>みたいという方が多かったのは確かです。ただ、いきなりたくさん集まったのではなく、1年目はちょっと苦労したところもあり、たまたま公民館に来た方で、「ピアノの発表会をしたいのですが、公民館は借りられますか。」という方がいたので、「しめた」と思い、「発表会は出来ませんが、こういうことも出来ます。」という形で、一人ひとりとたまたまお話ししたところを資源にしてつなげて、この形になりました。中学生も、最初の一つの部活だけで、8～9人程度だったのですが、地域の校長先生が本当に協力していただいて、そのことを2学期の始業式に表彰して下さった経緯があります。その結果、子どもたちも「じゃあ、やろうかな。」という流れになって、2年、3年、4年で少しずつ形になっていきました。既存の施設よりは新しいので、何かやってみようという皆さんの気持ちが大きな前提であったと思います。加えて地域の方からの御協力があつたのも、もちろんです。</p> |
| 佐伯委員長 | <p>加藤委員は、内野公民館を利用されていますが、いかがですか。</p> |
| 加藤委員 | <p>私は開館当初、大変懸念した点として、地域の方が公民館という施設をどれだけ理解できたものかというのがあつたのですが、スタッフの取組が良く、一同がお互い地域に顔を向けていただき、その親しみが公民館を育ててくれたと思っております。合併前の大宮市では、前にも話したのですが、公民館を中心に活動の拠点としていたのです。その後、さいたま市が誕生し、政令指定都市になり、西区という区ができて、公民館を拠点にしてやっている大宮地区にあって、内野地区というのは、西区のうち、既存の指扇、間宮、植水という各公民館の地域があるなかで、新たにできた地域なのです。その大半は、三橋1丁目～6丁目のうち、5丁目、6丁目の2つが西区になり、加えて宮前が日進地区から離れてできた、それで出来た地域でございますので、やはり私たちは地域の団体でありましたから、公民館を早く建ててほしいというので、あらゆる面で努力しました。さいたま市では、本来的にはハコモノを作らないという前提がありますので、これはできないなと思ったけれども、どんどんどんどん住民の声が大きくなって、内野公民館が出来たのです。公民館が新しくできて、施設面でも、例えば社会福祉協議会が高齢者の方を集めて会食する際には、調理実習室と多目的ホールが繋がっているので、裏から運べばもう会場へ届けられるという機能性があります。また、公民館にはエレベーターがあるのですが、高齢者の方が、公民館には興味はあるけれども階段を上がるのが大変だということで大変機能しておりまして、それが使われるものになっているのではないかと。和室も作っていただいて、お茶や囲碁、将棋など、日本文化について楽しむ機能性が良いのではないかなと。それからもう一つ、公民館がいわゆる併設ではなく、単独で設置されているということです。例えば他の公民館では、支所に半分くらいとられているところもあるのですが、内野では独立させたという点が恵まれているのではない</p> |

| | |
|-----------|--|
| | <p>かと思えます。事業については、岩崎さんに報告していただきましたけれども、大変良く説明をしていただいて、私は全部分かっていたのですが、他の皆さんから感想をいただいて、改めて感動しました。公民館同士がお互いに情報交換を何らかの方法でやることと、小・中学校へ、中学生に大変いろいろな面で協力していただくようになるには、公民館職員がいろいろと出向いたのではないかと思います。中学生というのは、部活やいろいろなことで忙しいかもしれないけれども、一番出やすい時期に来ていただくなど、細かな打合せがあったのではないかと。ちょっと長くなりまして、こんなにしゃべらなくても良いかと思ったのですが、岩崎さんが一生懸命やっていたので、我々がお互いに情報公開しながら、それぞれの公民館が特徴のある公民館を作るために意見を出していくことが我々の任務かと思えます。</p> |
| 佐伯委員長 | <p>公民館の応援団長ですね。</p> |
| 久保木委員 | <p>一つ質問したいのですが、岩崎さんの説明で、最初に、子育て中のパパを、という話がありましたよね。私も西区の植水公民館の関係ですが、各地区で子育て中のお父さん対象のハッピースマイル教室をどこかでやっていると思いますが、それぞれで終わってしまうのです。そこで、その後を繋いでいくために、何かそのコツというのか、私がというよりも、むしろその公民館の方に聞いて頂いてという部分があって、是非教えて欲しいのですが。</p> |
| 岩崎社会教育指導員 | <p>言えるほどの取組はしていないのですが、講座が終わった後、必ずこのメンバーで何かやりませんかという形でお声がけをしています。公民館でサークルを作れますよということで、団体登録の方法や、公民館の使い方や活用の仕方について、僭越ながらお話しさせていただいて、説明にありました、「チームうちのパパ部」の時は、丁度終わった時に「うちのフェスティバル」がすぐ2～3ヶ月後にあったので、パパで何かやりましょうよ、まずはブースを出しませんかと。そこで、何をしようかと話していたら、今も少し流行っています、寝ころびアートという、かわいい背景をバックに、赤ちゃんが寝ころんで写真を撮ると、今どきのパパ、ママはそういうものがとても好きみたいで、会議室の4分の1程度をパパ部のブースにして、寝ころびアートをやったら、少しずつでも、自分たちにも何かできるのではないかとという形で。最初はハードルを上げずに、何かやりませんかという感じで、公民館ではこんなことができますよ、ということをしつづつお話しさせていただきました。そんな大それたことでなくて申し訳ないのですが。</p> |
| 久保木委員 | <p>ありがとうございます。</p> |
| 佐伯委員長 | <p>ただで返さないってことですよ。素晴らしいのは、歴史講座などでも、講座が終わってから、次にこんな講座をやりませんか、音楽につなげるとか。それで終わりにしないということですね。小池委員、社会教育の</p> |

| | |
|----------|---|
| | 視点からいかがでしょうか。 |
| 小池委員 | <p>今回、表彰を受けられるかどうかという形で、審査する側の目からみていくのも大事だと思いますが、プレゼンテーションがないわけですね。この書類の中に、説明いただいた良さが、どれだけ伝わるのかなと考えると厳しい面もあると思いますが、今回、受かると良いなと思っています。もしだめだったら、次の視点として、特別支援学校と公民館の連携をやっているところが少ないと思うのです。文科省が打ち出して来ているのは、障害を持っている人たちの生涯学習をどう支援していくかというのが一番アップ・トゥ・デイトな課題です。ですから、特別支援学校との連携について書かれているというのは、とてもアピールになるポイントがこの資料の中にはあると思うので、それをもう少し生かすのも良いなと思いました。音楽を通じて地域の人たちを繋げるということが、内野公民館の一番の特徴ということになりますので、そこもやっぱり面白いところだと思います。新しく出来た公民館ならではの、施設を使ってこういうことができていると。そこに若い人たちが参加しているということが、こんな形で組み込まれているというのも、とても良いアピールポイントになっていて、面白い取組として着目はされていくのではないかという感覚を持ちました。来年、もしこういう企画を出すのであれば、公民館運営委員会でもうちょっと皆さんの意見を聞いて、ここを強調するべきだと、書きぶりもアドバイスをもらって出したらもっと良いものになるのではないのでしょうか。以上です。</p> |
| 佐伯委員長 | <p>貴重な御意見ありがとうございます。内野公民館の所管である、西区拠点公民館の森田館長、何か補足がありましたらお願いします。</p> |
| 森田指扇公民館長 | <p>補足というほどのものは、実はまだ私の中にはありません。これまで4年間取り組んできた、内野公民館の成果だと思っております。大事なこととして感じているのは、公民館は30年くらいに指扇にも植水にもできていた中で、そこにポンと内野公民館というものが建ったわけですが、社会的な機能の意味では、例えば社会福祉協議会や、地域の子ども会とか、育成会というところががちり出来ていて、その上にポンと公民館が置かれるわけですから、公民館を通じてなくても連携ができていたのです。それではその状況で公民館に何ができるのか、ということを探したのではないかと思います。そこで、実は社協さんとか、そういった地域の団体がやらねばならないことをやっているなかで、やりたいことで繋がっていきましょう。ということを目指したのが、内野公民館だと思います。それが緩やかな繋がり、「うちのつながるプロジェクト」というものだと思いますので、これは何十年も積み重ねたものに、これからの公民館がさらにプラスできるものだと思いますので、今回、この発表ができたというのは、非常に良かったと思います。ですので、これからはいかにやりたいことで繋がっていくか、それも一つの方法ではなくて、幅広い多様な住民がやり</p> |

| | |
|-------|--|
| | たいことで繋がるにはどうしたらよいか、ということを考えていくのが既存の公民館の仕事かなと聞いていて思いますので、取り組んでまいりたいと思います。 |
| 佐伯委員長 | 森田館長ありがとうございました。それでは、すいません時間の都合もありますので次の議題に移りたいと思います。では議題2の今後の審議会スケジュールについて、事務局よりご説明をお願いします。 |

事務局より、議題2の「公民館運営審議会の今後のスケジュール案について」、(資料2)に基づいて説明した。

| | |
|--------|---|
| 佐伯委員長 | ありがとうございます。このような流れで今後進んでいくということで事務局から説明がありました。ここで、先ほど冒頭で申し上げたのですが、特色について少し御意見を皆さんからもうちょっとお聞きしたいなと思います。私は前回の会議を休んでしまったので、皆さんの御意見を議事録で読ませていただいたのですが、大変貴重な御意見をたくさんいただいて、本当にありがたいと感じました。山中副委員長から、特色について、もう少し皆さんで整理した方が良いのではないかという意見があったので、そこをもう少しお話いただければと思います。 |
| 山中副委員長 | 先日の公民館職員の意見交換会で、公民館のこれが特色だと出していただいて大変興味深かったと第一印象であります。ですけれども、特色の内容が物理的なことであったりとか、今日の優良公民館に関しては事業の話であったりとか、いろいろな次元で特色が語られておりましたので、何を特色とするのか、どういう次元で話をまとめていくのか、方向性が決まらないと、答申がちょっと難しいのではないかという印象を、正直思ったところではあります。本日の内野公民館の説明、大変興味深くすごいなと思いましたが、何を以て優良とするのか。審査する人がどんな方かは存じ上げませんが、優良だと思いつつもこの優良とされることで職員はどういう風にモチベーションが励まされるのだろうか、どのポイントでどういうお仕事内容で、というところが大変気になっておまして、そもそも端々で特色というのはあることはあるわけで、そこをあえて答申として出していくときには、そのような意味も含め一定程度の共通理解、一体何を指しているのかということが、完全一致とまでは行かないまでも、ある程度話しておくことが必要ではないかと。答申で文書化されることもありますので、ちょっとその辺が気になったところです。 |
| 佐伯委員長 | 物理的なことがあったり、内容的なことがあったりということで、何を特色、何を以て特色とするのかということですね。今回、答申で私達に求められる特色ということについて、事務局からコメントはありますか。 |
| 荻原事業企画 | 今回、諮問を出させていただくにあたり、さいたま市公民館全館で、親 |

| | |
|--------|---|
| 係長 | <p>の学習事業、こちらは一事業ですけれども、全館一律でどこの公民館に行っても同じことをやっている、ということが現状なのですが、その他にも今回の内野公民館のように、職員が地域や周りの人たちのつながりの中でそれぞれ違う講座、見かけは同じ講座でも中身は違う、進行が違う、作りが違うような、公民館ごとにオリジナリティをもっと出していくべきではないかなということも考え、特色のある事業という形で一つのテーマを出した経緯もございます。</p> |
| 山中副委員長 | <p>一点危惧するのは、大学も今、そうだと思いますけど、特色を出せと言われて、ありもしないところから一生懸命引っ張ってきて、それが非常に首を絞める。明文化したことによって、とにかく人を集めなきゃいけない、アピール力があるものとはとにかく発信しなければいけないみたいなことで、仕事のある意味本質を忘れかけながら、ひたすら人集めとかに走ってしまう、やらざるを得ない、予算もそれでくくられているとても苦しい思いをしています。そのようなことにならないまでも、なんでしょうね、内野公民館さんがとても大事にされている優良ポイントはどこかと言えば、個人的には事業の面白さもさることながら、やはり当事者意識を大変高めるところで、職員さんたちがものすごくタイミング良く支援をぼんぼんと打っていらっしゃる。それがおそらく最大の優良ポイントじゃないかと個人的には今日とても感銘を受けたのですけれども。そういうところがもしかするとちょっと薄らいできて、とにかく人を集めなければならない、特色はこうじゃないかアピール力だということで、走っていかないかなというように意味で、特色というのを整理していかないと、職員さんはものすごく苦労されるし、大変なんじゃないかなと。ちょっと余計なことかもしれないですが、ちょっと危惧を感じているところもございます。そういう意味もありまして、一定程度話し合いが出来ればなと思います。</p> |
| 小池委員 | <p>公民館は、やはり社会教育のための施設ということで、どんなことをやっても、活動の核は人づくりでありまちづくりであると思います。この中で、個人の要望に応えるということと、社会の要請に応じて社会教育をやるようにといわれているだけですから、住民のニーズが、どういうものなのかということと、もう一つは各地域の特徴を踏まえた上で出てくる課題というものに、各公民館はどう応えようしているのかということ。それが一つひとつの公民館の特性というか、地域の住民のニーズや課題というものが何かということを確認にして、こういった特徴ある講座になっているということ、私たちが整理していけば良いのではないかと思いますね。その中で、21世紀型の公民館ですから、1940年代、50年代に作られたときの公民館の在り様とはまた違うけれども、やはり普遍的なものは人づくり、まちづくりをどういう風にやっていくかということですから、今、公民館の機能として求められているものは何なのかということをお答申の中ではっきり記した上で、一方、新しいニーズやそうした社会の変化の中</p> |

| | |
|--------------|--|
| | <p>でこんな特徴がある新しい活動が生まれてきていることを論じていくこと、またそれが出来ないとすれば、そこにおける一番の課題は何なのかということを今後の課題、公民館の持っている課題という形で共有していくというのが、答申の内容になっていくのではないかと私は考えております。いかがでしょうか。</p> |
| <p>佐伯委員長</p> | <p>ありがとうございます。他にいかがでしょうか。 中澤委員にお聞きしてよろしいですか。前回御発言の公民館ごとに何か目玉事業というか、サクセスストーリー、というところに大変ひかれたのですが、小池委員のおっしゃったことに通じることだと思ったのですが。</p> |
| <p>中澤委員</p> | <p>別の団体で NPO 活動もしているのですが、その地域活動で感じるものがいくつかあります。地域には立派な、社会活動や、いろんな活動をしている団体があるということです。どこがリーダーシップをとるか別にして、先ほど内野公民館の発表にあった、社協、公民館、NPO 法人などの活動のシナジー効果をどうやって出していくかが、地域の発展につながってくると思うのです。内野公民館の文書を見ていると、しっかりやられていると思うのです。それが内野の場合、新興人口急増地帯というのですかね、そういうところの一つのサクセスストーリーだと思います。ですから、そういう活動をもう少し密にして、お互いの連携を高めていただく中で、それぞれの団体の特色を生かしながら、活動の一つにまとめあげる力を、是非公民館として持っていただく。それによって、それぞれの団体活動のシナジー効果を生み出して、それが地域としての一番の目的である、共助社会づくりに役立ってくるし、また地域に所属する一員として、教育としても役立ってくるのではないかと思います。そこで、一つのヒントとして、さいたま市は良い資料をいっぱい出しています。例えばさいたま市の行政区を人口の面から分析した資料や地域の開発計画をまとめたものもあります。その資料を見ますと、人口急増地帯、旧大宮であるとか、旧浦和であるとか、旧与野のように長い歴史を持ったところ、それからその周りにできた、例えば美園地区もそうですけれども、旧住民新住民比率が逆転しそうなところがあるわけですよ。そういう特色を理解していただいて公民館活動が何も画一的でなくても良いと思います。地域の特色を生かしてもらいたい。さいたま市の各部局で作成した貴重な資料を生涯学習総合センターさんとしても共有していただければと考えます。例えば人口急増地帯であるならば内野公民館のモデルはとても良いと思いますよ。いろいろ団体を一つにまとめ上げていく、協力者それから従来の勢力が強いところならば、そういう人たちをどうやって互いに縦割りではなく、横並びの連携を取りながら、地域としてのシナジー効果を作っていくことで、活動がいきいきとしていくのではないかという気がします。地域によって特色というのは色々あると思うので、今は人口急増というところを一つのキーポイントとしてお話したんですけど、地域に住む皆さんが一番存じていると思う</p> |

| | |
|--------|--|
| | <p>ので、ニーズをしっかりと把握して、目玉事業を作ってもらえればと思いますね。</p> |
| 佐伯委員長 | <p>ありがとうございます。堀杉委員は岸町公民館で活動されていますけど岸町公民館地域の特色について、御自分で考えて何かありますか。</p> |
| 堀杉委員 | <p>中澤委員がおっしゃった通り、浦和地区として古くからあるのですが、人口比率はなんといいですか、マンションがたくさん出来たので、私が住んでいる地域は、住民の6割がマンション人口になってしまってますから、昔の考え方と本当に違うのですね。公民館がというわけではないのですが、自治会の仕事をやっておりますと、何をどういうふうにして若い人たちを取り込んでいくか一番の課題で、悩みどころです。</p> |
| 佐伯委員 | <p>山崎栄慈委員は、いかがですか。ちょうど若い方が支えている PTA 活動をされているのですが。</p> |
| 山崎栄慈委員 | <p>そうですね。私もおやじの会を立ち上げたりとかしていますが、今日の内野公民館の話聞いて、これまでは公民館を活用するという発想はなかったのですが、また近くの公民館と何か連携が取れたら面白いだろうなど。何も思い浮かばないですけど、館長さんとも親しいので、公民館の活用ができるかなと思ったのと、やはり先ほど、小池委員が言われていた、地域の方のニーズに結局、意見交換会で佐伯委員長がファシリテーターとしてなさっていたことが、公民館地域の役割なのかなと。いろいろな方がおられる社会資源を、公民館が色々な発見をしてコーディネートしていく場所なのかなというふうに感じまして、私自身が地域で公民館に利用していただける社会資源になっていきたいと今日の会議で思いました。</p> |
| 佐伯委員長 | <p>ありがとうございます。素晴らしいです。前回皆さんからの意見で、公民館は学校と協力していきたいということもありますし、それから、公民館の住んでいる場所でもいろいろなキャッチフレーズがあるのだから、それから公民館の職員の方が地域差をいかに求めて実現する公民館にしていくか、それにサクセスストーリーの話等感じていただいて、本当にありがたいなと思いました。6月29日に公民館の社会教育指導員研修を担当させていただき、岩崎さんも社会教育指導員ですけど、地区公民館では館長が1名、それから市職員1名、定年を迎えた再任用職員1名に、指導員が1名という、4人体制がほとんどです。そのなかで、指導員が主に事業を企画・実施しているのですが、その時は指導員だけの研修会を実施しました。4人の中で指導員の立場というか、一番末端で、でも一番力を尽くしていただく方たちで、しかも一人しかいない館が多いので、横の連携がないと、どうしても孤立感が出てしまうようなこともあると皆さんの話からも出てきました。今回の研修ではネットワークづくということで、館の中でネットワークを作るのも当然ですけども、指導員さん同士の横のネットワークを広げて作っていくことで、例えばアドバイスがもらえたりとか、相談が出来たりとか、情報交換をしながら、皆の気力を上げていく</p> |

| | |
|--------|--|
| | <p>ということが大切なんじゃないかなということが、最後、皆さんからの感想にありました。他にも、人のつながりを大切にしていこうとか、社会教育の大切さが分かったとか、繋がりを大切にしたい、人と人、人と地域、地域と地域、地域の人、団体とコラボした講座を企画したい、というのがありまして、先ほど小池委員がおっしゃった様に、個人の要請だけでなく地域の課題を明らかにして、地域の資源と公民館の人ですよ、財産だと思うので、それを掛け合わせていくというのが、特徴につながっていくのではないかと。そういう意味で地域を知る、地域に出て行き知るということがとても大切ではないかと感じました。山田委員、地域と密着して活動していると思うのですが、一言お願いします。</p> |
| 山田委員 | <p>私も全然、内野公民館の素晴らしい取組を今まで知らなくて、自分の身近にある公民館しか見てなかったんで、たくさんの公民館を見ることによって、うちとは違うなというところが特色ではないかと思いました。いろいろなところを見ないとだめですね。もっと勉強しようと思いました。</p> |
| 佐伯委員長 | <p>どうも、ありがとうございます。他にご意見ありますか。お願いします。</p> |
| 中澤委員 | <p>内野公民館の例で見てみますと、社会教育指導員研修も、ある意味各拠点公民館も参考にさせていただくとありがたいですが。ここで一つの教材として使ったのが優良公民館の表彰事例がありますよね。文科省のホームページを見ると全部掲載されているわけです。他の地域でどういうことを考えながらやっているのかと、これ一つ取って読むだけでも、相当、勉強になるわけですよね。ですから、是非、一つの教材として何年も表彰事例があるのでけれども、こういうのを分析していくと、どういうことを地域で求めているかよく分かると思うのですよね、その表彰事例を分析してみただけでも、こういう活動もしているとか、分かるはずですよ。ですから、是非これを教材にさせていただいて内野公民館の研修を参考にいただき、各拠点公民館さんにリーダーシップを取っていただくと、とても地域が活性化してくるのではないかという気がしないでもありません。それがそれぞれの公民館の意識改革につながって行くのではないかと思うので、是非その辺ご検討していただければと思います。</p> |
| 佐伯委員長 | <p>はい。ありがとうございます。どうでしょう、みなさんの方向性は。</p> |
| 山中副委員長 | <p>私個人は理解できました。</p> |
| 佐伯委員長 | <p>山中副委員長が言っていたように、公民館が辛くなるようになっては、ダメですよ。これをやらなきゃいけないと言って、今後、答申ができて、特色ある公民館を作らなきゃと思って、単純にそこだけに突き進んでいくと辛くなってしまいます。そうではなく楽しくやる、地域にどんどん出ていっていただいて、いろいろな人と関わって、これが本来の社会教育だと思うので、ニーズを知ってそれを取り込んだ事業を自分たちでオリジナルを考えて、それがサクセスストーリーにつながるだろうし、それが特色になっていくのではないかなというふうに、今皆さんの話をお聞きして感じまし</p> |

| | |
|-----------|---|
| | た。ありがとうございます。それでは、今後の答申に向けて、事務局とも協議をしながら進めていきたいと思えます。では、これで議題を終わりますが、何かございますか。 |
| 加藤委員 | 事務局の方に質問をしたいのですが、内野公民館で県に推薦していただいたということはすごく嬉しいのですが、つまり、いろいろな話を聞きますとね、公民館に必要なのは、現状4人体制でスクラム組んで、それをいかに地域の公民館の特徴を生かせるように一つのつながりを持てるかというところで、人事異動についてはどう考えているのかなと思えます。というのは、今までは何年か経っていますが、館長さんがコロッと変わることがあり、今度は、内野公民館は4名のうち3名が変わったのです。公民館の特徴というのは、そこで働いている人たちが地域に馴染んだ形というのは、一番大切にしなくちゃいけないところだと思うのです。それが4名中3名変わってしまうことがあるわけです。半分交代くらいが良いと思うのです。というのは、2人で地域はこうですよと継続性を保つ。1人だけで賄うのではなくて、ベテランが2人いれば、もっとそれに近いもので、新しいものが生まれて地域とのつながりに持っていけるのではないかと、こう考えるのです。だから、事務局のほうでね、人事は違う方でやるのでしょうけども、それはやっぱり念頭に置いて公民館のそれぞれを発展的に進める様にそれをちょっと頭に入れておいてほしい。 |
| 小池委員 | 答申に書かれたらどうですか？つながって行くって、とても大事なわけですから、こうしていきますよ。と言ったら3人変わっちゃって、聞いていません。という話は良く聞く話なのですよね。そこらへんが行政に対する答申ですから、答申の中においてお願いごとでちょっとソフトな物言いで、しかし厳しいことを書けばよろしいのでは。 |
| 佐伯委員長 | ではそこは要望ということでよろしくお願ひします。では、事務局から何かありますでしょうか。 |
| 荻原事業・企画係長 | 特にございません。 |
| 佐伯委員長 | ありがとうございます。では、本日の議事は終了いたしました。円滑な進行への御協力どうもありがとうございます。また皆様たくさん意見を出して頂きまして、誠にいつもありがとうございます。では、事務局お願ひします。 |

次回は、9月25日(火)午前10時00分より生涯学習総合センター7階講座室1・2にて開催することを確認した。

1.1 閉会